

令和4年度版



東神楽町の小中一貫教育

中学校の英語教員による小学校外国語への乗り入れ授業の実施



東神楽小・志比内小 オンラインビデオ会議システムなどのICT機器を利用した合同授業の様子

東神楽町小中一貫教育イノベーションプログラム

これまで東神楽町の教育は、素晴らしい実績と成果をあげ、先進的な取組にも挑戦してきました。これまでの取組を土台とし、既存の枠組みを新たに再編成し、「令和の日本型学校教育」の推進に向け、学校、児童生徒、保護者、地域すべての教育に携わる人々が、意図的・計画的・組織的に関わりあうことができるプログラムを作りあげます。

東神楽町が目指す小中一貫教育は、これまでの小・中学校の基本的な枠組みは変えずに、9年間を通して目指す子ども像を共有し、9年間の系統性を確保した教育課程による学習指導を行うとともに、各校で共通した生徒指導や研修の充実など小・中学校間で一貫した仕組みを整えるなど、これまで以上に小学校と中学校のつながりを強くします。

小中一貫教育の目的は

小中一貫教育は、義務教育9年間を通して、学校・家庭・地域が一緒に子どもたちを育てていくことを目的としています。取組を進めることで、学習内容や学習活動の質的・量的な変化への対応が図られ、また、小学生が中学校に進学する際の大きな環境の変化を和らげることにより、新しい環境への適応につなげます（中1ギャップの解消）。

小中一貫教育推進委員会

東神楽町の小中一貫教育を推進するため、各小・中学校の教員による小中一貫教育推進委員会を組織しています。教務部会、指導部会、研修部会の3つの部会に分かれ、各校の現状把握と学校課題の共有を行い、課題解決に向け取組を進めています。

■ 小中一貫～9年間で目指す子ども像～

夢と自信をもち、志をもって粘り強くやり抜く児童生徒の育成

		確かな学力	豊かな心	健やかな体
小学校		粘り強く学ぶ子	やさしい子	進んで体を鍛える子
	低学年	めあてを理解し、自分で問題を解こうとする子	あいさつができ、友だちと仲良くしようとする子	楽しく運動し、きまりを守って安全に生活しようとする子
	中学年	課題を見付け、進んで考え、解決しようとする子	心を込めて挨拶し、相手のことを考えて行動しようとする子	体力をつけ、健康・安全に過ごそうとする子
	高学年	自ら課題をもち、仲間とともに、多面的に考え、追求しようとする子	時と場をわきまえた挨拶ができ、互いを思いやり、温かい行動をとろうとする子	たくましい体をつくり、健康・安全のための的確に判断し行動しようとする子
中学校		進んで学びとる生徒	人の役に立とうとする生徒	積極的に体を鍛える生徒

各校の学校教育目標を分析・統合し、小学校から中学校への接続を踏まえた上で、上記のような「目指す子ども像」を設定しました。

■ 小中一貫教育推進委員会各部の活動

教務部会

小・中学校で一貫した学習規律を作成し、統一した指導を行います。
これまでに統一した教育課程の素案作りや町内の学習規律の統一化などを進めてきました。

令和3年度の成果

全町小学校5年生合同宿泊研修の立案

全町的な防災教育の充実と中1ギャップへの対応

令和4年度の実施

- ICTの活用について、端末使用のルールを含めた学習の手引きの検討
- H31年度作成「東神楽町の学習の約束」の改訂・周知

令和5年度の活動予定

- カリキュラム・マネジメントの充実
(例) 教育課程の見直し、キャリア教育の推進
- ICTの活用の充実に向けた取組
(例) 学校データの共有などの取組



◇ 専門性を生かした小学校高学年乗り入れ授業の実施（学園制加配を活用）

学校校間の連携がより一層必要！！

- 中学校英語教員⇒小学校5・6年生の外国語/外国語活動
- 中学校数学教員⇒小学校5・6年生の算数
- 体育エキスパート教員による小学校での授業実施など

指導部会

小・中学校で一貫した生活規律（校内生活・校外生活）を作成し、統一した指導を行うため、東神楽町生徒指導連絡協議会等と連携して活動を行ってきました

令和3年度の成果

生徒指導事案の対応フローチャート作成

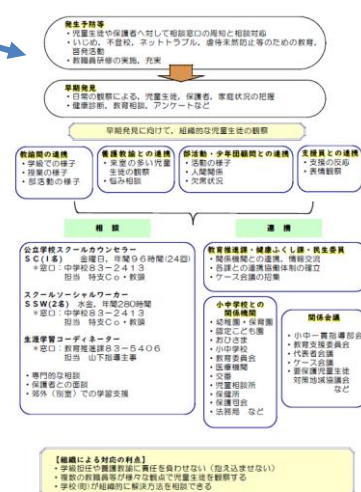
令和4年度の実組

- ① いじめの積極的認知に向けた共通認識と、解消に向けた対応の交流
- ② 生徒指導連絡協議会との重複内容の整理

令和5年度の活動予定

- ① 学校間の生徒指導交流と視察交流
(例) データの引き継ぎと連携の在り方・不登校支援
- ② 危機管理マニュアルや具体の交流
(例) SNSの取扱いの対応など

東神楽町 関係機関等と連携を回った児童生徒指導対応の流れ



研修部会

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善による学力向上へ向けた取組など町全体で取り組むべき内容について検討しています。

令和3年度の成果

iPad 利用におけるタイピングの目標設定

令和4年度の実組

「書くこと」を重視した授業改善

- ① 町内小中学生の思考力・判断力・表現力の資質向上に向けた授業改善の実組
- ② ICT 活用に関わる部会活動成果の周知

令和5年度の活動予定

- ① 児童生徒の思考力・判断力・表現力の資質向上に向けた授業改善
- ② 町内学校間での授業交流を通じた授業改善

- 1年生：iPadに慣れる。
2年生：絵日記や観察記録などを書く。(タッチペンを活用)
3年生：単語をローマ字で入力することができる。
4年生：簡単な文章をローマ字で入力することができる。
5年生：全国学力学習状況調査の国語の問題に、60文字～100文字で回答するものがあることから、100文字程度の文章をローマ字で入力することができる。
6年生：国語科の「書くこと」の言語活動例に「事実や経験を基に、感じたりしたことや自分にとっての意味について文章を書く活動」とあることから、45分の授業で、600文字程度の文章をローマ字で入力することができる。

(2) 到達目標

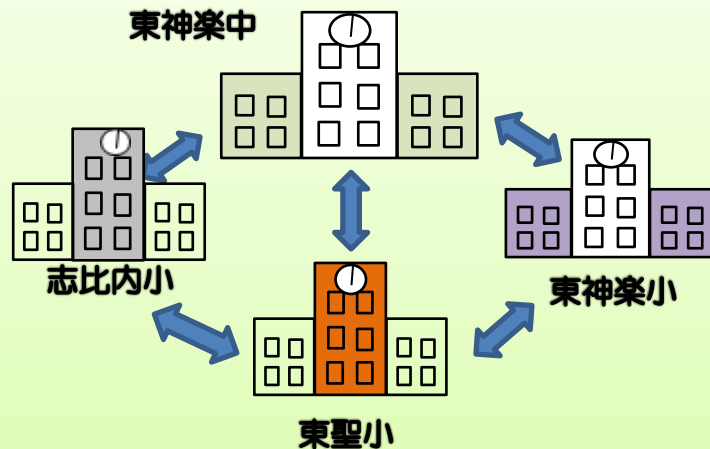
iPadの活用は、ノートのように個別学習の記録として活用するだけでなく、子ども同士の意見交流が可能であることから、「個別学習」と「協働学習」の到達目標を設定する。

	個別学習	協働学習
1年生	・写真や動画を撮ることができる。 ・漢字や計算ソフトを活用することができる。 ・手書きやタッチペンで書きこむことができる。	・自分で撮った写真や動画を使い友達に説明することができる。
2年生	・手書きやタッチペンで日記や手紙を書くことができる。	・作成したものを活用し発表することができる。
3年生	・ローマ字で単語の入力ができる。 ・インターネットを利用し調べることができる。	・調べたことをロイロノートでまとめ発表することができる。
4年生	・簡単な文章をローマ字で入力することができる。	・調べたことをロイロノートでまとめ発表することができる。
5年生	・100文字程度の文章をローマ字で入力することができる。	・ロイロノートを活用し友達と意見交流することができる。
6年生	・600文字程度の文章をローマ字で入力することができる。	・ロイロノートを活用し友達と意見交流することができる。

東神楽町における小中一貫教育の形態

併設型小学校・中学校

- 既存の小学校、中学校の施設や校長、教職員はそのまま生かします。
- これまでの各校の基本的な枠組は変えずに、9年間の教育課程を編成します。



各コミュニティ・スクールとの連携

その他小中一貫教育の取組活動（例）

特別支援教育

東神楽町における特別な教育的ニーズを持つ幼児・児童・生徒について、適切な指導及び必要な支援を行うために、幼・保、小中学校、関係機関などで構成される東神楽町教育支援委員会が設置されています。



全ての児童生徒が、安心して学習するために、ユニバーサルデザインの視点を生かした学級づくり・授業づくりに役立つチェックリストを作成しました。

＜小学校＞ 気をつけている項目に☑を入れてみましょう。	
環境の工夫	<input type="checkbox"/> 教室内の物や教材の置き場所が一目でわかるように整理されている。 <input type="checkbox"/> 教室の前面掲示物は最小限にし、棚などには余計な刺激が入らないよう目隠し。 <input type="checkbox"/> クラス内の当番や行動の手順や仕方をマニュアル化し、視覚的に確認できるようにする。
授業における指導方法の工夫	<input type="checkbox"/> 授業の初めに、内容の進め方について全体的な見通しを伝えている。 <input type="checkbox"/> 指示や伝達事項は聴覚的にだけでなく視覚的に提示している。 <input type="checkbox"/> 抽象的、あいまいな表現ではなく、具体的に話す工夫をしている。 <input type="checkbox"/> 聞く時間、話す時間、活動する時間を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 聞く、話す、活動するなど一つにこだわらず様々な活動を取り入れている。 <input type="checkbox"/> 文章の内容にそって、課題を視覚的に理解できるようにしている。 <input type="checkbox"/> 考える手順を伝えている。
個別的な配慮	<input type="checkbox"/> 座席は刺激の少ない、言葉をかたがた言える子には具 <input type="checkbox"/> 得意なことが得意でできる活動をする。 <input type="checkbox"/> 集団で活動するための言葉遣いを教える。 <input type="checkbox"/> 気持ちを聞き取り受け止めてか

＜中学校＞ 気をつけている項目に☑を入れてみましょう。
 学習指導の工夫 ☐ 授業の位置は個々の活動に合わせ

切れ目のない一貫した指導・支援を目指して

我が国においては「特別支援教育の推進」を国策とし、誰もが安心して生活し、学び、働くことができる社会の実現を目指す。この実現には、障害のある者と障害のない者が共に学ぶことが必要である。「インクルーシブ教育システム」においては、同じ場で共に学ぶことを目指すとともに、個別の教育的ニーズのある児童生徒に対して、自立と社会参加を促進し、教育的ニーズに応える指導を多様な支援体制を整備することを目指す。小・中学校における通常の学級、特別支援学級、特別支援学校といった、連携的な「多様な学びの場」を実現する必要がある。

北海道教育委員会「校の支援プログラム」

＜特別支援教育＞ 小・中学校における特別支援教育の推進
 小・中学校では、よりよい社会生活を送るための基礎を育み、
 中学校段階では、自立及び地域の社会生活を実現するための力を育む。

＜多様な学びの場、小・中一貫した支援体制＞
 通級指導教室 ＜個別学習＞
 ・専任学級の指導計画に基づいた国語・算数、数学等の補完指導及び自立活動
 ＜SST（ソーシャルスキルトレーニング）＞
 ・グループ及び個別での実施。
 ・ソーシャルスキル学習による実態把握及び計画的な指導の実施。
 ＜ことばの指導＞
 ・発音指導、吃音に対する指導。
 ・聴覚機能、読解と読解した内容を自分なりに表現、指導の実施。

小・中学校における連続性のある「多様な学びの場」を用意するためのポイントをまとめました。

東神楽町の小中一貫教育についての取組や内容については、町のホームページからご覧いただけます。 <https://www.town.higashikagura.lg.jp/>

【問合せ先】 東神楽町教育委員会教育推進課 電話 0166-83-5406（直通）